八女市吉田
**鹿野　雪枝**

お友達から「絵手紙教室へ行ってます。来ませんか」と誘われました。「私は絵が苦手でダメです」と言うと、「葉書に、チョチョット書くだけよ」と言われ、私は何を思ったのか、絵手紙を始める事に・・・。いざ絵筆を持つと、なかなか思うように描けません。もともと絵が苦手な私です。何で絵手紙を始めたのか、後悔しました。先生に見ていただくのも恥ずかしく、思い切って見せると、私の絵が魔法にかかった様に、生き生きと、それは感動しました。「石の上にも三年」私は十年過ぎました。少しは上手になったかなー、自画自賛しております。

先生、教室の皆さん、こんな私です。これからも宜しくお願いします。

## 私が運転免許を持たないワケ　その１

今から５０年以上も昔、私は東京の化粧品会社広告部でコピーライターとして働いていた。ある朝いつものように遅刻間近に出社すると、課長が「君に電話があった」と少しニヤリとして、「麹町警察署から出社したら連絡してくれということだった」と付け加えた。

すぐ電話を入れると、尋ねたいことがあるから署に来てくれとのことである。地下鉄の本郷駅から少し坂道を下ると麹町署。中に入って見渡すと、警官たちの合間にうなだれて座っている男がいた。なんと広告部の先輩、デザイナーの谷川さんではないか。昨夜遅くまで一緒に飲んでいた相棒だ。

この頃マイカーを持つ者は珍しく、国産の中古車を月賦で買った谷川さんは、通勤から夜の酒場巡りまで自慢げに乗り回していた。酒気帯び運転も事故さえ起こさなければほぼセーフだった。

「前田さんだね」と警官が確かめる。そうだと答えると、昨夜の一部始終、どこで何を飲んだのかを教えて欲しいという。「谷川さんが、何かしたのですか」と尋ねると、酒気帯び運転で若い女性を傷つけたのだと答えた。

「夕方、二人でビールを飲んだそうだね」、「ええ」、「その量は・・・」「ええと、このぐらいのグラスで・・・」と指で小さな形を作る。「それを何杯飲んだ・・・？」「えーと二杯」。少なく言おうと思うが、谷川さんが自白した量と大きく違うと困る。警官は「二軒目は居酒屋で、飲んだのは酒だね」と迫る。酒も量を少なく言った。

谷川さんは、麹町署の留置場に一晩泊められただけで済んだ。こそ泥、空き巣狙いなどで留置されていた連中は、「絵描きの先生」にいい寝場所を作ってくれたそうだ。

傷つけた相手の怪我が軽く、谷川さんが治療費や見舞金を払って終わったという。私は日々欠かさず酒を飲むから、車を持てば自分も酔って運転するだろう・・・と思った。思っただけで、現実は中古車も買えそうにない寂しい懐具合であった。　　前田　哲太郎

## 健康万歳 ㉖　あなたの肝臓は大丈夫ですか？

ギリシャ神話の中に「プロメテウスの話」と言う有名な逸話がある。

権力者の秘密を知ったプロメテウスを罰として岩山に繋いで、鷲に毎日肝臓を食わせたのに、肝臓は夜毎に元通りに成った。永い間の苦しみに耐え抜いた後、ヘラクレスによって解放されたという話である。

この時代から肝臓は再生力が強いことを知られていた。肝臓はかなり損傷しても再生することが今はほとんどの人が知っている。

人間の体の中で再生力があるものは非常に少なく、他には皮膚や粘膜、腎臓の一部くらいで、脳細胞などは死ぬまで細胞分裂さえしない。

肝臓の働きは２つある。１つは胃腸内で消化された食物を澱粉はブドウ糖に、蛋白質はアミノ酸に、脂肪は脂肪酸とグリセリンに変え貯蔵する役割と、後１つはもし飲食物に毒物が入っていた場合には肝臓内でこれを解毒して胆汁に混ぜて十二指腸に送り出す役目である。

どういう訳か日本人には肝臓疾患が多く、特に「愛飲家」を不安にしている肝臓がんの男性死亡率は世界一といわれている。

肝がんは「肝細胞がん」と胆汁の通り道である胆管から発生する「胆管細胞がん」があるが、肝細胞がんが圧倒的に多い。ほとんどは慢性肝炎、肝硬変に引き続いて発生するが、福岡・佐賀両県は日本一死亡率が高い。

肝臓病の原因は大別すると１）ウイルスが原因、２）アルコール、３）中毒の３種類がある。肝炎ウイルスを持っている人は日本人には相当数いるので母親から胎児に感染する「タテ感染」が多い。肝臓病との闘いはウイルスとの闘いであるといえる。

A 型ウイルスから B 型ウイルス C 型、E 型が発見され、ワクチンが効力を発揮している。A 型肝炎は減少したが、B 型肝炎は血液からの感染で輸血による感染を防げば防御できる。全体の２／３を占める C 型肝炎は肝硬変から肝がんに移行することが多く、医学の進歩で治療法も効果をあげてきた。アルコール肝炎は愛飲者に多いが、依存症に至った患者は 100% 肝臓を悪くしていると言ってよい。これも C 型肝炎ウイルスが関与している可能性が高い。

林　栄一（立花町・医師）

## ネットメロンの栽培

**八女農業高等学校**

システム園芸科野菜専攻の３年生は、毎年この時期はネットメロン栽培に専念しています。今年も５月１７日から約２週間、１８名が毎朝早くから登校し授粉作業を行ってきました。雌花の一つ一つに花粉を付けていきます。そして、最終的には１つの株に２つの果実を実らせます。この時期の雌花に実を付けないと美味しい理想的な形のメロンができないので生徒たちは、真剣に授粉作業に取り組みました。授粉に成功したメロンは、日に日に大きくなります。初めは緑色のラグビーボールの形をしていますがだんだんと大きくなるにつれて淡緑色に変化します。そして、少しずつ網目のネットが入り最後には果実全体に白いネットが浮き上がってきます。生徒たちは、ハウスに入るたびにこの変化するメロンの姿に驚きながら熱心に栽培管理を続けています。

早いメロンは、７月１０日頃には収穫が始まります。この記事が載るころは、メロン栽培の最終段階の時期でしょう。土壌の水分を少しずつ切りながら甘いメロンに仕上げていきます。目標の糖度は、「１６度以上」です。

収穫したメロンのうち最もいいメロンは生徒たちがご褒美として家へ持ち帰り家族と試食します。

販売の時期には、本校の未来館や道の駅たちばなでの販売を計画しています。

**７月の校内販売所（みらい館）の開館日**

４日（火）、７日（金）、11日（火）、18日（火）、21日（金）、25日（火）、28日（金）

販売時間は、10時30分～15時30分です。多くの皆様のお越しを心からお待ちしています。

## 呟き　境界線

子どもの頃、近所に友達もなく兄弟もいなかった私は、人との関わり方がよくわからなかった。いつも一人何役もしながら人形遊びやままごとを楽しんだ。幼稚園に上がっても家で過ごす方がよっぽど気が楽で、なぜ私は幼稚園に行かねばならないのか、なぜ皆が楽しそうなのかわからなかった。小学生になってその思いは益々強くなり、乾布摩擦も時間内に食べ終われない給食も忘れ物常習もイヤ。何より、裸足で鼻水垂れている元気な友達の中で、自分が浮いているのがイヤだった。タイツを履いている、ピアノを習っている、リボンを付けている…「お嬢様やん」と、周りからは冷やかされ劣等感を感じていた。学校に着くと二時間目ぐらいからお腹が痛くなりお祖父ちゃんに迎えに来てもらった。珍しく友達が家に遊びに来てもお婆ちゃんには「裸足のまま家に上がるし汚いから家に入れなさんな」と、言われていた。中学生になっても、仲良くなった友達は次々と髪の色が変わったりスカートが長くなったりして離れていく。「真面目やん」と、周りから言われた。そしてやっと…高校生になって気持ちが落ち着いた。周りには自分と似たような人がいっぱい。誰も私を冷ややかに見る人はいない。進学校なので勉強は大変だったけれどそれが当たり前だからホッとした。本当は食いしん坊で忘れん坊でのんびり屋の私を周りは笑って受け入れてくれた。やがて社会に出て、再びあの頃のように自分とは価値観の違う様々な人達と出会う。けれど、もう当時のように動揺せず、それぞれの生き方や良さを感じる私がいる。それは、自分を客観視できた小学・中学時代があったからこそ。自分を受け入れてくれた高校時代があったからこそ。境界線はいつの間にかなくなっていた。

森　志穂